


HP Data Protector A.06.11

スタートアップ ガイド

このマニュアルは、Data Protector をすぐお使いいただけるよう構成されています。デフォルト設定を使えば、ソフトウェアのインストール、バックアップや復元を素早くしかも簡単に行えます。

 **注記：** このマニュアルはすべての Data Protector 製品に適用されます。シングル サーバ版をご使用の場合は、このマニュアルに記載されるプラットフォームや機能の一部を使用できない場合があります。

目次

Windows システムでのインストール 3

Cell Manager のインストール 3

クライアントのインストール 6

UNIX システムでのインストール 7

Cell Manager のインストール 7

クライアントのインストール 9

次に行う手順 11

バックアップ デバイスの構成 11

メディアのフォーマット 13

システムのバックアップ 14

基本的なバックアップ ルーチンのスケジュール設定 15

バックアップからの復元 16

Data Protector 関連マニュアル対応表 17

略称 17

対応表 18

Data Protector 統合ソフトウェア 19

ライセンス 20

問い合わせ先 20

本書に記載されている内容は事前の通知なしに変更されることがあります。HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の明示的保証規定に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も当該保証に新たに保証を追加するものではありません。HP は、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねます。

MS Windows[®] は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Intel[®] および Pentium[®] は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

UNIX[®] は、The Open Group の登録商標です。

Java[™] は、Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Windows システムでのインストール

 **注記:** インストールに関する最も詳しい内容については、Windows インストール用 DVD-ROM の最上位レベルの /docs ディレクトリに収められている『HP Data Protector インストールおよびライセンス ガイド』を参照してください。

前提条件

- 管理サーバ (Cell Manager):
 - 256 MB RAM (推奨 512 MB)
 - 190 MB のディスク スペースと、バックアップ予定のデータ容量の 2% のディスク スペース
- バックアップ クライアント (Disk Agent):
 - 64 MB RAM (推奨 128 MB)
 - 10 MB のディスク スペース
- デバイス サーバ (Media Agent):
 - 64 MB RAM (推奨 128 MB)
 - 20 MB のディスク スペース
- ユーザー インタフェース (GUI):
 - 256 MB RAM
 - 100MB のディスク スペース (オンライン マニュアル用 45 MB を含む)
- Java ユーザー インタフェース (Java GUI):
 - Intel Pentium 1000 MHz または同等品 (推奨 Intel Pentium IV 2.6 GHz または同等品)
 - 512 MB (推奨 1 GB RAM)
 - 200 MB のディスク スペース (オンライン ヘルプ用を含む。推奨 300 MB))
 - Java GUI クライアントの場合、Java Runtime Environment (JRE) 1.5.0_06 またはそれ以降のマイナー バージョン (1.5.0_07 など)

1 台のシステムにすべてのコンポーネントをインストールする場合、そのシステムには、ディスク スペース 305 MB と、最低 256 MB の RAM (推奨 512 MB) が必要です。

Cell Manager のインストール

<http://www.hp.com/support/manuals> (英語) を参照して「Data Protector」を検索してください。ください。本リリースでサポートしているプラットフォームについては、バージョン 6.11 を選択してください。

インストールの準備

1. Data Protector Cell Manager となるシステム上で以下の操作を行います。
 - a. スタンドアロン テープ ドライブをお使いの場合、テープ デバイスを Data Protector Cell Manager に接続して、電源を入れます。
 - b. TCP/IP プロトコルとホスト名解決を使用可能にします。**使用可能かどうかを確認するには、以下の手順に従ってください。**
 - i. コンピュータ名を検索し、名前解決が正しく機能していることを確認します。
 - コマンド プロンプト (Windows プラットフォームの場合) またはターミナル (UNIX プラットフォームの場合) を起動します。
 - hostname と入力します。使用しているコンピュータの名前が表示されます。
 - ii. 名前解決と到達性を確認します。
 - 以下のコマンドを入力します。nslookup <ホスト名>
 - DNS の逆引きを行うため、以下のコマンドを入力します。nslookup <IP アドレス>上記のどちらのコマンドでも同じホスト名と IP アドレスが返された場合、ネットワークは正しく設定されています。(ネットワークに問題がある場合は、『HP Data Protector トラブルシューティング ガイド』を参照してください。)
 - c. 静的 IP アドレスを割り当てます。
 - d. Windows テープ デバイスとチェンジャを非アクティブ化します (推奨)。(Windows テープ デバイスは、このテープ デバイスに他のアプリケーションがアクセスしている場合など、例外的なケース以外は使用しないでください。)
2. システムに Administrator ユーザーとしてログオンします。
3. Data Protector で使用する Windows アカウント (dpadmin など) を個別に設定します。必ず以下の条件を満たすようにします。
 - 設定したユーザーが Administrators および Backup Operators のメンバーであること
 - そのユーザーに「サービスとしてログオン」権利が付与されていることこれは、必要なサービスを動作させる目的のみに必要なユーザーアカウントで、特定のシステムへのログオンには使用されません。このアカウントは、サーバおよびクライアント システムの Data Protector サービス アカウントとして使用します。Windows ドメインでは、このユーザー アカウントをプライマリ ドメイン コントローラに設定するだけで十分です。

Data Protector のインストール

4. Windows インストール用 DVD-ROM を挿入して
\\i386\setup.exe を実行し、ウィザードを起動します。
5. **[Cell Manager]** を選択します。その後は、ウィザードの指示に従います。このとき、デフォルト値を使用します。
6. **[アカウント情報]** ウィンドウに、手順 3 で作成したユーザー アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。

Data Protector を実行するには

[スタート]>[プログラム]>[HP Data Protector]>[Data Protector Manager]の順に選択します。

詳しくは、DVD-ROM の最上位ディレクトリの \docs ディレクトリに収められているマニュアルを参照してください。

クライアントのインストール

<http://www.hp.com/support/manuals> (英語) を参照して「Data Protector」を検索してください。ください。本リリースでサポートしているプラットフォームについては、バージョン 6.11 を選択してください。

前提条件

- インストール済みの Cell Manager
- 管理者の権限および管理者パスワード
- TCP/IP プロトコルとノード名解決を使用可能にする

RAMAM およびディスク スペース — 最小値および推奨値

クライアント システム コンポーネント	RAM (MB)	ディスク スペース (MB)
オリジナル GUI	256 ¹	150 ²
Java GUI ³	512 (推奨 1,000)	40 (推奨 60)
Disk Agent	64 (推奨 128)	10
Media Agent	64 (推奨 128)	20
統合モジュール	64 (推奨 128)	20
英語版ドキュメントおよびヘルプ	n/a	80

¹ 同時に表示する必要がある要素の数によって異なります。

² ページ ファイルだけは物理メモリの約 3 倍のサイズまで増加できるようにする必要があります。

³ Java GUI も最低 Pentium III プロセッサ 1 GH が必要です (推奨 Pentium IV 2.6 GHz)。


Cell Manager GUI からリモートでインストールする手順

1. システムに管理者としてログオンします。
2. [スタート] > [プログラム] > [HP Data Protector] > [Data Protector Manager] の順にクリックします。
3. Data Protector Manager で [クライアント] コンテキストを選択します。
4. Scoping ペインで、[クライアント] を右クリックし、[クライアントの追加] を選択してウィザードを起動します。
5. ウィザードの指示に従います。

インストール対象のシステム上でローカルにインストールする手順

1. システムに管理者としてログオンします。
2. `\\i386\setup.exe` を実行します。
3. クライアントのインストールを開始します。
4. 画面に表示される指示に従います。


UNIX システムでのインストール

 **注記：** インストールに関する詳細については、DVD-ROM の /docs ディレクトリに収められている『HP Data Protector インストールおよびライセンス ガイド』を参照してください。

Cell Manager のインストール

 **注記：** サポート対象のプラットフォームについては、<http://www.hp.com/support/manuals> (英語) を参照してください。

バックアップ デバイスがローカルに接続された Cell Manager を、デフォルト構成でインストールする例を以下に示します。

 **注記：** すべての UNIX プラットフォームで、Java GUI のみをサポートしています。Java GUI には 75 ~ 200 MB のディスクスペースが必要です (インストールされているオンライン ヘルプの言語によって異なります)。英語の場合、必要なディスクスペースは 75 MB です。Java GUI、Disk Agent、および Media Agent などのディスクスペースを以下に示します。

前提条件 (HP-UX)

- Java JRE 1.5.0_06 または、それ以降のマイナーアップデートされたバージョン
- HP-UX 11.x
- 256 MB RAM (推奨 512 MB)
- 350 ~ 550 MB の空きディスクスペース + バックアップ予定のデータ容量の 2%

前提条件 (Solaris)

- Java JRE 1.5.0_06 または、それ以降のマイナーアップデートされたバージョン
- Solaris 8/9
- 256 MB RAM (推奨 512 MB)
- 350 ~ 550 MB の空きディスクスペース + バックアップ予定のデータ容量の 2%
- 各ターゲット システムのルート権限
- ksh シェル (デフォルトで提供)

前提条件 (Linux)

- Java JRE 1.5.0_06 または、それ以降のマイナーアップデートされたバージョン
- 256 MB RAM (推奨 512 MB)
- 300 ~ 425 MB の空きディスク スペース + バックアップ予定のデータ容量の 2%
- Linux SUSE 9 および RedHat Enterprise 4.0 については、libstdc++ に関する前提条件があります。詳細は、『Product announcements ソフトウェア ノート および リファレンス』の「インストールの要件」を参照してください。

手順

Data Protector Cell Manager で以下を実行します。

1. UNIX インストール用 DVD-ROM をマウント ポイントにマウントします。以下に例を示します。

```
mkdir /cdrom
mount /dev/dsk/c0t0d0/cdrom
```

2. omnisetup.sh を実行します。DVD-ROM からこのコマンドを実行するには、以下のとおり入力します。

```
cd /cdrom/LOCAL_INSTALL
./omnisetup.sh -CM
```

3. 表示されるプロンプトに従います。

クライアントを Cell Manage からリモートでインストールするか、またはローカルでインストールします。

Data Protector を実行するには

/opt/omni/bin/xomni と入力して Data Protector GUI を起動します。

クライアントのインストール

<http://www.hp.com/support/manuals> (英語) を参照して「Data Protector」を検索してください。ください。本リリースでサポートしているプラットフォームについては、バージョン 6.11 を選択してください。

前提条件

- 各ターゲット システムのルート権限
- ksh シェル

RAM およびディスク スペース — 最小値および推奨値

クライアント システム コンポーネント	RAM (MB)	ディスク スペース (MB)
オリジナル GUI	256 ¹	150 ²
Java GUI ³	512 (推奨 1,000)	40 (推奨 60)
Disk Agent	64 (推奨 128)	10
Media Agent	64 (推奨 128)	20
統合モジュール	64 (推奨 128)	20
英語版ドキュメントおよびヘルプ	n/a	80

リモート インストール

Data Protector GUI を使って、クライアント ソフトウェアをクライアントに配布します。異なるプラットフォームへのインストールも可能です。

1. /opt/omni/bin/xomni と入力して Data Protector GUI を起動します。
2. Data Protector Manager で [クライアント] コンテキストを選択します。
3. Scoping ペインで、[クライアント] を右クリックし、[クライアントの追加] を選択してウィザードを起動します。
4. ウィザードの指示に従って操作を行います。ウィザードの各ページの詳しい内容については、オンライン ヘルプを参照してください。

Media Agent のインストール後、構成ファイル (/kernel/drv/st.conf) をチェックします。詳しくは、『HP Data Protector インストールおよびライセンス ガイド』の「Solaris クライアントのインストール」を参照してください。

最後に、バックアップ デバイスをシステムに接続します。

ローカル インストール

1. HP-UX インストール用 DVD-ROM を挿入します。
2. インストール用 DVD-ROM をマウント ポイントにマウントします。

3. <マウント ポイント>/LOCAL_INSTALL に移動して、以下のコマンドを実行します。

```
omnisetup.sh [-source <ディレクトリ>]
```

```
[-server <サーバ名>]
```

```
[-install <コンポーネント リスト>]
```

Data Protector コンポーネントのコードの一覧については、『HP Data Protector インストールおよびライセンス ガイド』を参照してください。

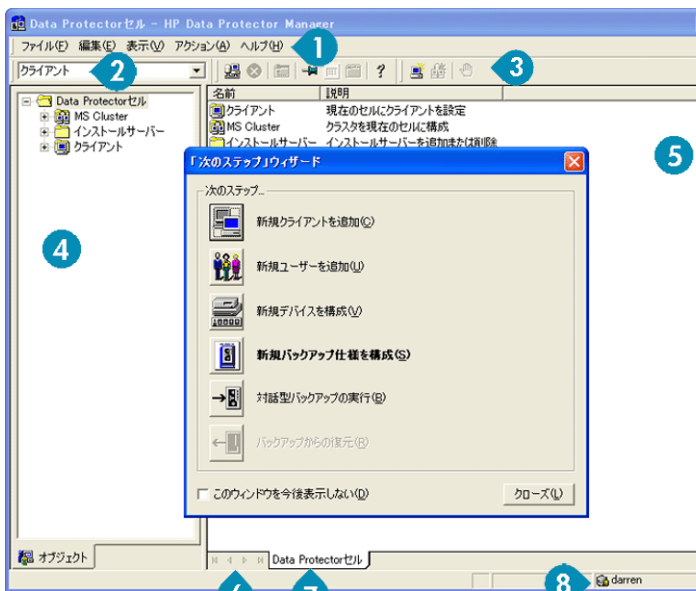
4. インストールが完了した場合やクライアントが Data Protector セルにインポートされた場合は、omnisetup によるメッセージが表示されます。CORE および CORE-INTEG コンポーネントは自動的にインストールされます。

Cell Manager 名を指定していると、クライアントがセルにインポートされます。指定しなかった場合は、Data Protector GUI を使ってクライアントをインポートしてください。

次に行う手順

これで **Data Protector Manager** の実行準備ができました。

Data Protector Manager を起動します。**Data Protector Manager** が開いて、[クライアント] コンテキストと [次のステップ] ウィザードが表示されます。



- ① メニューバー
- ② コンテキストリスト
- ③ ツールバー
- ④ SCOPING ペイン
- ⑤ 結果エリア
- ⑥ ナビゲーションタブ
- ⑦ 結果タブ
- ⑧ ステータスバー

注記: Java GUI は、上図と見た目が若干異なります。

バックアップ デバイスの構成

ファイル ライブラリ デバイスの構成

ここでは、ほとんどデフォルト オプションだけを使用して、基本的なファイル ライブラリ デバイスをローカルドライブまたは共有ドライブに構成する方法について説明します。その他の使用可能なオ

プシオンについては、オンライン ヘルプの索引キーワード「バックアップ デバイスの構成」で表示される内容を参照してください。

作業を開始する前に Windows 上で圧縮オプションを無効にします。

1. ローカル ディスクまたは共有ディスク上にディレクトリを作成します。

例: C:\FileLibrary

2. Data Protector を起動します。
3. コンテキスト リストから [デバイス / メディア] を選択します。
4. [デバイス] を右クリックして、[デバイスの追加] を選択します。デバイス を定義する画面が表示されます。
5. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名: 例: File Library Device 01

説明: 適宜

クライアント: このデバイスの接続先クライアントを選択します。

デバイスの種類: [ファイル ライブラリ] を選択します。

[次へ] をクリックします。

6. 手順 1 で作成したファイル ライブラリ デバイスのディレクトリを指定し、[追加] をクリックします。
7. [次へ] をクリックします。結果エリアで、メディアの種類として [ファイル] を選択します。
8. [完了] をクリックします。

スタンドアロン ドライブの構成

自動構成

1. コンテキスト リストから [デバイス / メディア] を選択します。
2. [デバイス] を右クリックします。
3. [デバイスの自動構成] を選択します。
4. リストからシステムを選択して、[完了] をクリックします。

デバイスが自動的に構成されます。

手動構成

上記のファイル ライブラリ デバイスの手順 4 までを実行します。

5. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名: 例: LTO-3 Tape Drive

説明: 適宜

クライアント: このデバイスの接続先クライアントを選択します。

デバイスの種類: [スタンドアロン] を選択します。

[次へ] をクリックします。

6. SCSI アドレスをドロップダウン リストから選択します。[追加] をクリックします。
7. [次へ] をクリックします。結果エリアで、適切なメディアの種類 ([LTO] など) を選択します。
8. [完了] をクリックします。

メディアのフォーマット

Data Protector は、テープが認識できるように個々のテープに独自のヘッダを書き込みます。この項で説明するとおり、フォーマット操作は手動で行えます。また、自動で行うこともできません。Data Protector でテープを使用するには、前もってテープをフォーマットしておく必要があります。テープを Data Protector で自動的にフォーマットする場合は、この項の手順を省略してください。

△ **注意:** フォーマットにより、メディア上のデータはすべて削除されます。

1. [デバイス / メディア] コンテキストで、[プール] を展開します。
2. 適切なメディア プールを右クリックします。
3. [フォーマット] を選択します。
4. 結果エリアでドライブを選択して、[次へ] をクリックします。
5. デフォルトの設定値をそのまま使用して、[次へ] をクリックします。
6. [強制操作] と [メディア サイズ] セクションで [デフォルト] を選択した後、[完了] をクリックします。これにより、メディアのフォーマットが実行されます。

システムのバックアップ

バックアップ仕様の作成手順と基本的なバックアップの実行手順を以下に示します。

1. コンテキスト リストで **[バックアップ]** をクリックします。
2. Scoping ペインで **[バックアップ]** を展開した後、**[バックアップ仕様]** をクリックします。
3. 結果エリアで **[ファイルシステム]** を右クリックして、**[バックアップの追加]** 選択します。
4. **[Blank Filesystem Backup]** テンプレートを選択して **[OK]** をクリックします。
5. 結果エリアに表示される、バックアップ対象指定の画面でディレクトリ / ファイルをブラウズして、バックアップ対象のディレクトリ / ファイルの横にあるチェックボックスを選択し、**[次へ]** をクリックします。テープ デバイスが接続されていない場合は、サイズの小さいディレクトリを数個選択するにとどめてください。
6. 結果エリアに表示される、使用するデバイスまたはドライブ指定の画面で、バックアップに使用するデバイスを選択して、**[次へ]** をクリックします。
7. デフォルトのバックアップ オプションを使用するか、希望のバックアップ オプションを選択して、**[次へ]** をクリックします。
8. 定義済みスケジュールを使用するか、希望するスケジュール用オプションを選択して、**[次へ]** をクリックします。スケジュール設定の例については、「**基本的なバックアップ ルーチンのスケジュール設定**」(15 ページ) を参照してください。
9. 結果エリアにバックアップ仕様のサマリーが表示されます。**[次へ]** をクリックします。
10. バックアップ仕様を保存して後で使用する場合は、**[別名で保存]** をクリックします。
11. バックアップを実行するには、**[バックアップ開始]** をクリックします。
12. **[バックアップ開始]** ウィンドウが表示され、**[OK]** をクリックすると、デフォルトのバックアップ仕様でのバックアップが開始されます。
13. **[バックアップ]** ウィンドウに、バックアップ セッションの進行状況が表示されます。バックアップが完了した時点で、その旨を知らせるメッセージが **[セッション情報]** ウィンドウに表示されます。

基本的なバックアップ ルーチンのスケジュール設定

たとえば、毎週金曜日にフルバックアップのスケジュールを設定するとともに、金曜以外の平日はすべて21時に増分バックアップのスケジュールを設定します。増分バックアップは4週間保持し、さらに各月のフルバックアップについては12か月保持するとします。

Data Protector には、複数の定義済みスケジュールが用意されています。「フルバックアップ (毎週)」が必要とする条件に (毎週金曜日のフルバックアップと金曜以外の平日の21時に行う増分1バックアップ) 近いバックアップです。増分1バックアップは、前回のフルバックアップ以降の変更をすべてバックアップします。

スケジュールを定義する手順

1. 手順7 (14 ページを参照) でバックアップ仕様を定義するときに、[スケジュール] タブに移動します。
2. [定義済み] をクリックします。
3. [毎週 (フル)] を選択し、[OK] をクリックします。
4. [追加] をクリックします。
5. [繰り返し] で、[月単位] を選択します。
[時間オプション] で、毎月のバックアップ時刻を選択します。
[セッション オプション] で、[バックアップ保護] ドロップダウン リストから [週数] を選択し、下部のボックスに週数 (1年 = 52 週) を入力します。

バックアップのスケジュール

バックアップに関して希望する時刻、間隔、継続期間、種類を指定してください。

繰り返し

なし (E)

日数単位 (D)

週単位 (W)

月単位 (M)

時間オプション

時間 14:15

指定日を指定 (D)

2009/08/05

繰り返しオプション (E)

スケジュール 1 日 1 月

セッションオプション

バックアップの種類 (D) フル

ネットワーク負荷 高 (H) 中 (M) 低 (L)

バックアップ保護 (E) 週数

1

OK (O) キャンセル (C) ヘルプ (H)

6. [OK] をクリックします。
7. [適用] をクリックします。

バックアップからの復元

デフォルトでは、バックアップ オブジェクトはバックアップ実行時のパスへ復元されます。以下に基本的な復元の実行手順を示します。

1. コンテキスト リストで **[復元]** をクリックします。
2. **[ファイルシステム]** をブラウズして、復元対象のクライアント オブジェクトを選択します。結果エリアに **[復元]** ビューが表示されます。
3. ディレクトリ / ファイルをブラウズして、復元対象のディレクトリ / ファイルの横にあるチェック ボックスを選択します。
4. **[あて先]** タブを選択して、復元先を選択します。何も選択しない場合、ディレクトリ / ファイルはバックアップ実行時と同じパスに復元されます。
5. **[復元]** ボタンをクリックします。 **[復元セッションの開始]** ウィザードが表示されます。
6. ウィザードに表示されるデフォルト設定を使って操作を進めます (**[次へ]** と **[完了]** をクリックします)。
7. 復元画面が表示されて、選択したオブジェクトのシステムへの復元状況が表示されます。

Data Protector 関連マニュアル対応表

略称

マニュアル対応表とその次のページの統一一覧で、HP OpenView Storage Data Protector の各種マニュアルに対して以下の略称を使用します。

略称	マニュアル
CLI	Command line interface reference guide
Concepts	コンセプト ガイド
DR	障害復旧ガイド
GS	スタートアップ ガイド
Help	オンライン ヘルプ
IG-IBM	Integration Guide - IBM applications
IG-MS	インテグレーション ガイド - Microsoft アプリケーション
IG-O/S	インテグレーション ガイド - Oracle、SAP
IG-OMU	Integration guide—HP Operations Manager, UNIX
IG-OMW	Integration guide—HP Operations Manager, Windows
IG-Report	Integration guide—HP Reporter
IG-SIP	Integration guide—HP Service Information Portal
IG-Var	Integration guide—VMware, Sybase, Network Node Manager, and NDMP Server
Install	インストールおよびライセンス ガイド
MO GS	Media Operations getting started guide
MO RN	Media Operations product announcements, software notes, and references
MO UG	Media Operations user guide
MPE/iX	MPE/iX system user guide
PA	Product announcements ソフトウェア ノート および リファレンス
Trouble	トラブルシューティング ガイド
ZDB Admin	Zero Downtime Backup administrator's guide
ZDB Concpt	ゼロ ダウンタイム バックアップ コンセプト ガイド
ZDB IG	Zero Downtime Backup integration guide

対応表

各種情報の掲載先を以下の表に示します。青色で塗りつぶした場所は、初めて参照するのに適したマニュアルです。

	Help	GS	Concepts			PA	インテグレーションガイド										ZDB			MO			MPE/IX	CLI
			Install	Trouble	DR		MS	O/S	IBM	Var	OMU	OMW	PM/PA	Report	SIP	Concpt	Admin	IG	GS	User	PA			
バックアップ	✓	✓	✓				✓	✓	✓	✓							✓	✓	✓				✓	
CLI																								✓
概念 / 手法	✓		✓				✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓				✓	
障害復旧	✓		✓		✓																			
インストール / アップグレード	✓	✓	✓		✓						✓	✓	✓	✓	✓				✓	✓		✓		
インスタントリカバリ	✓		✓														✓	✓	✓					
ライセンス	✓			✓		✓																✓		
制限事項	✓			✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓			✓				✓		
新機能	✓					✓																✓		
プランニング方法	✓		✓															✓						
手順 / 作業	✓			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓		
推奨事項			✓			✓												✓					✓	
必要条件				✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓					✓	✓	✓	✓		
復元	✓	✓	✓				✓	✓	✓	✓								✓	✓				✓	
サポート一覧						✓																		
サポートされる構成																		✓						
トラブルシューティング	✓			✓	✓		✓	✓	✓	✓								✓	✓					

Data Protector 統合ソフトウェア

以下の統合ソフトウェアの詳細については、該当するマニュアルを参照してください。

統合ソフトウェア	ガイド
HP Operations Manager	IG-OMU, IG-OMW
HP Performance Agent	IG-PM/PA
HP Performance Manager	IG-PM/PA
HP Reporter Light	IG-OMW
HP Reporter	IG-Report
HP Service Information Portal	IG-SIP
HP StorageWorks Disk Array XP	すべての ZDB
HP StorageWorks Enterprise Virtual Array (EVA)	すべての ZDB
HP StorageWorks Virtual Array (VA)	すべての ZDB
IBM DB2 UDB	IG-IBM
Informix	IG-IBM
Lotus Notes/Domino	IG-IBM
Media Operations	MO User
Microsoft Exchange Server	IG-MS, ZDB IG
Microsoft Exchange Single Mailbox	IG-MS
Microsoft SQL Server	IG-MS, ZDB IG
Microsoft Volume Shadow Copy Service (VSS)	IG-MS, ZDB IG
MPE/iX System	MPE/iX
NDMP Server	IG-Var
Network Node Manager (NNM)	IG-Var
Oracle	IG-O/S
Oracle Zero Downtime Backup	ZDB IG
SAP DB	IG-O/S
SAP R/3	IG-O/S, ZDB IG
Sybase	IG-Var
Symmetrix (EMC)	all ZDB
VMware	IG-Var

ライセンス

Data Protector にはインスタントオン・ライセンスが組み込まれており、インストール後 60 日間ソフトウェアを使用できます。この期間中に、HP Password Delivery Center (PDC) に恒久パスワードを請求し、インストールすることができます。

必要なライセンスをすべて購入した場合、恒久パスワードを使って、ユーザーのバックアップ方針に合った Data Protector セルを構成できます。

パスワードを入手するには、以下の HP Password Delivery Center (PDC) の電話相談窓口までご連絡願います。
HP Password Delivery Center (PDC)
TEL (03)3227-5264

(受付時間 : 午前 9 時～午後 5 時 30 分)

(『HP Data Protector インストールおよびライセンス ガイド』 マニュアルの「Data Protector のライセンシング」の章に、申請フォーム等の必要な情報が記載されておりますので、上記窓口へのお電話にあたって、事前にご参照ください。)

なお、以下のパスワード配信用 Web サイトからも、同様に恒久パスワードを入手することが可能です。

(英語でのご案内となっております。)

<http://www.webware.hp.com>

問い合わせ先

HP Data Protector に関する詳しい情報については、下記の Web サイトをご覧ください。

www.hp.com/go/dataprotector (英語)

<http://h50146.www5.hp.com/products/storage/software/dataprotector/index.html> (日本語)

また、最寄りの当社営業所もしくは当社製品の販売会社へご連絡ください。